

平成24年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」実績報告書

1. 事業名称

美容師のためのキャリア・フレームワークと教育プログラムの構築およびその海外への普及

2. 事業実施期間

委託を受けた日(平成24年7月31日)～平成25年3月15日

3. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの別

職域プロジェクト

産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの名称

美容師のキャリア・フレームワークと教育の構築と海外への普及

関係するコンソーシアムの名称(職域プロジェクトのみ記入)

クリエイティブ(美容)コンソーシアム

4. 分野名

④クリエイティブ(コンテンツ、デザイン・ファッション等)

「その他」分野名

5. 代表機関

■ 代表法人

法人名	学校法人 メイ・ウシヤマ学園
理事長名	山中 祥弘
学校名	ハリウッドビューティ専門学校
所在地	〒 106-8541 東京都港区六本木6-4-1六本木ヒルズ ハリウッド プラザ

■ 事業責任者

省略

■ 事務担当者(文部科学省との連絡担当者)

省略

## 6. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの構成員・構成機関等

### (1) 構成機関

	構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	都道府県名
1	学校法人メイ・ウシヤマ学園	主幹事	東京都
2	ハリウッドビューティ専門学校	全体支援	東京都
3	ハリウッド大学院大学	全体支援	東京都
4	ビューティビジネス学会	全体支援	東京都
5	公益社団法人東京都専修学校各種学校協会	全体支援	東京都
6	長野理容美容専門学校	全体支援	長野県
7	ミエ・ヘア・アーティストアカデミー	全体支援	三重県
8	宮崎サザンビューティ美容専門学校	制度構築	宮崎県
9	山梨県美容専門学校	制度構築	山梨県
10	株式会社ガモウ	制度構築	東京都
11	特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構	実証評価	東京都
12	kakimotoarms	実証評価	東京都
13	AXIS	実証評価	東京都
14	(有)サロンド・ユーウ	実証評価	東京都
15	株式会社さきや美粧堂	実証評価	東京都

### (2) 協力者等

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
金 南希	ソウル総合芸術学校 客員教授	助言・評価	韓国
宋 英	ハリウッドビューティ専門学校 講師	助言・評価	東京都(韓国)
佐々木千加	元韓国又松大学校 准教授	助言・評価	東京都
張 芳茵	北京財貿職業大学 客員教授	助言・評価	中国(北京)
王 曉東	王珍妮美容サロン 代表	助言・評価	中国(瀋陽)
蔣 曼文	大雅国際形象造型顧問有限公司 代表	助言・評価	台湾

(3) 産学官連携コンソーシアムの下部組織（設置した場合に記載。職域プロジェクトの場合は記入不要）

全体支援			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
山中 祥弘	学校法人メイ・ウシヤマ学園 理事長	委員長	東京都
山中 ジェニー	ハリウッドビューティ専門学校 校長	全体支援	東京都
江夏 健一	ハリウッド大学院大学 学長	全体支援	東京都
寺本 義也	経営研究所 所長	全体支援	東京都
有我 明則	公益社団法人東京都専修学校各種学校協会 事務局長	全体支援	東京都
川島 鋼太郎	学校法人メイ・ウシヤマ学園 国際交流室長	全体支援	東京都
長尾 明靖	長野理容美容専門学校 理事長	全体支援	長野県
片山 正勝	ミエ・ヘア・アーティストアカデミー 理事長	全体支援	東京都
金 南希	ソウル総合芸術学校 客員教授	全体支援	韓国
宋 英	ハリウッドビューティ専門学校 講師	全体支援	東京都(韓国)
張 芳茵	北京財貿職業大学 客員教授	全体支援	中国(北京)
蔣 曼文	大雅国際形象造型顧問有限公司 代表	全体支援	台湾
名称(制度構築分科会)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
伊東 昭彦	ハリウッド大学院大学 教授	主査	東京都
原田 保	ハリウッド大学院大学 客員教授	制度構築	東京都
渡邊 雅美	日本美容技術振興センター 副理事長	制度構築	東京都
中野 正好	中野メイクアップ研究所 所長	制度構築	東京都
中村 富玖美	日本ネイリスト協会 理事	制度構築	東京都
木村 泉	ハリウッドビューティ専門学校 講師	制度構築	東京都
柿本 哲	kakimotoarms 代表取締役社長	制度構築	東京都
佐藤 友彦	AXIS 取締役	制度構築	東京都
増保 利行	株式会社きくや美粧堂 取締役	制度構築	東京都
蒲生 典子	株式会社ガモウ 常務取締役	制度構築	東京都
名称(実証評価分科会)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
本田 あけみ	ハリウッド大学院大学 准教授	主査	東京都
真崎 裕子	特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構 事務局長	実証評価	東京都
福島 吉範	東京都美容生活衛生同業組合 副理事長	実証評価	東京都
谷口 光正	日本ヘアデザイン協会 理事長	実証評価	東京都
川越 啓子	宮崎サザンビューティ美容専門学校 校長	実証評価	東京都
山形 正喜	山梨県美容専門学校 理事長	実証評価	東京都
渡辺 邦夫	(有)サロンド・ユージュ 専務	実証評価	東京都

## 7. 事業の内容等

### (1) 事業の概要

美容師のキャリア形成を支援するため、学習成果の国際的な通用性を確保する教育のフレームワークを構築し、美容教育の質の保証と向上を図り、わが国の優れた美容教育の国際移転の進展に貢献する。そのために、クワイティブ(美容)コンソーシアム等の調査や方向性等を踏まえ、キャリアパスを明示し、必要なキャリアスキル基準、キャリアアセスメントテストを開発・実証すると共に海外の学校との共同プログラムの実施を目指す。

(2)事業の内容について（産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトにおける具体的な取組内容）

美容人材には、「美容師国家試験」以外に技術水準を測る適当な公的基準が存在しない。したがって、美容師になった後は、所属するサロンの方針にしたがってキャリアアップするか、私的訓練団体を利用するか、または、独自の方法でキャリアを積み重ねることになる。多くの美容師は、独立経営を夢見ているが、そこへ達するまでのキャリアパスがどのようなものか？ 自分は今そのようなパスにいるのか？ などについて明確な答えを持たないまま多忙な職業生活を送ることが多い。

本事業は、国家試験に合格した美容師が将来のキャリアパスを描ける仕組み、また、具体的な目標を持ってキャリアを高める仕組みとしての国際的な質保証を伴う教育のフレームワーク（段位制度）を構築する。さらに、この中で、美容技術の海外移転に伴うキャリアも明示し、わが国の美容技術の国際的優位性も高める。

この目的を達成するために、本事業では、クリエイティブ（美容）コンソーシアムが実施する調査結果を踏まえたアジア地域にも通用するフレームワーク（キャリア段位制度）の構築（1）、段位教育制度の実証（2）、という2つの段階を踏む（図1）。国際的なフレームワークの中心となる具体的制度の柱として、①キャリアパスの明示、②必要なキャリア（スキル）基準、キャリアアセスメントテスト（学習の達成度評価）を実証・開発する。

更に、アジア地域等における国際的なフレームワーク構築を目指し、参加するアジアの学校間における共通のコア・キャリア基準、達成度評価、単位互換、ダブルディグリー等の取組のモデルを描いていく。

なお、24年度事業においては、キャリア・フレームワークを構築し、キャリアパス、キャリア基準、キャリアアセスメント等の制度要素について、骨子を固めるまでのプロセスを実施し、制度の詳細設計及び実証実験等は平成25年度以降に実施する。

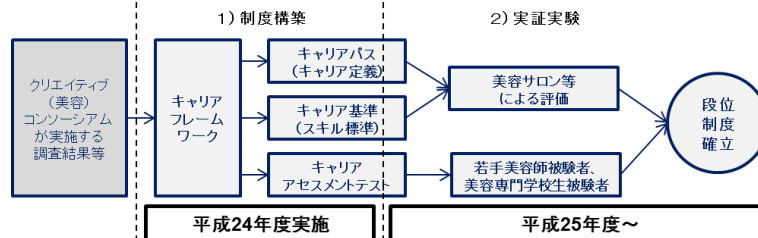


図1 事業の全体フロー

1) キャリア段位制度のフレームワーク

● 段階の数は5 (Level 1～5) とし、美容師免許を取得する前の美容専門学校生たちにとって動機づけとなるレベル0を想定することとした。

● 美容師に対する評価は、一般に、個々の美容師の「技術」であるから、基本的にスペシャリストとしてのキャリア形成を中心に据えた（マネジメント系のスキルよりも）。ただし、最上位のLevel 5は、美容サロンのマネージメントが可能なオーナーを位置づけた。多くの美容師が最終的にオーナーになりたいとの夢を持っていることがその理由である。

職種 職務	ビューティスペシャリスト				名称	人材像
	ヘア	メイク	ネイル	エステ		
レベル 5					オーナー	サロン経営者として、社会・地域のニーズを捉え、ビューティビジネスを自ら企画・開発し、新規にサロンを設立する。または、既存サロンの改善を行う。経営戦略の立案、運営管理等、サロンの経営の全てについての指導・管理を行う。
レベル 4					トレーナー	トレーナー（プロフェッショナル人材育成の責任者）として、サロンの経営戦略に基づきながら、ビューティシアンの評価、配置計画立案、育成計画立案、指導等を行う。また、サロンのサービスレベルやステータス、ブランド力の向上に貢献する。
レベル 3					ビューティシアン	ビューティシアンとして、ヘア、メイク、ネイル、エステ等の担当分野における高度または最新の技術を行う。また、顧客満足度の高いサービスが実践でき、サロンのサービスレベルやブランド力向上に貢献する。更に、ジュニアビューティシアンに適切な指示・助言を行う。
レベル 2					ジュニアビューティシアン	ジュニアビューティシアンとして、他方で、ヘア、メイク、ネイル、エステ等の担当分野における標準的な技術を行う。また、顧客満足度を志向したサービスが実践できる。更に、アシスタントに適切な指示・助言を行う。
レベル 1					アシスタントビューティシアン	アシスタントとして、上位者の指示・指導の下で、ヘア、メイク、ネイル、エステ等の担当分野に関するアシスタント業務を行う。また、顧客満足度の考え方に基いて行動する。
レベル 0					ベシッパビューティチューデント	ビューティシアンを目指すチューデントとして、ヘア、メイク、ネイル、エステ等の担当分野に関する基本的な業務、および、顧客満足度の考え方について学習した結果、実務に就くことが可能な知識・技術を持つ。

図2 構築したキャリア・フレームワーク

24年度中心検討領域

2) キャリア・パス 「できる」の体系化ー

●キャリア・パスを描くために必要な実践的スキルを「できる」と位置づけ、ヘア、メイク、ネイル、エステの4領域のそれぞれにおいて体系化した。図3は「メイク」の例(一部)である。

区分	能力ユニット	能力科目	
		科目	内容
メイク	準備・後始末	美容用具の準備	道具、化粧品等を準備する。
		美容用具の後始末	道具、化粧品等の後始末をする。
	カウンセリング	顧客ニーズの把握	メイクに対する顧客の要望を把握する。
		顧客の状態の把握	形態学的に顔を観察・把握する。
			肌の状態を観察・把握する。
		提案・合意形成	メイクを提案し合意を形成する。
		施術後のアドバイス	施術後のメイクの仕方を指導する。
		カルテ作り	カルテを作る。
	ベースメイクアップ	スキンケア	クレンジングを行う。 トーンングを行う。 プロテクトングを行う。
			ファンデーションを施術する。
			修整メイクアップを行う。
			スキントラブルテクニクを活用する。
			アイシャドウをデザインする。アイシャドウを入れる。
			アイラインを引く。
	アイメイクアップ		マスカラを付ける。
			つけまつ毛を付ける。
			アイラッシュカールを行う。
	アイブロウメイクアップ		描きまつ毛テクニクを活用する。
		アイブロウを入れる。	
メイクの施術		ドミシングを行う。	
	リップメイクアップ	リップメイクを行う。 リップを修整する。	

図3 「できる」の体系 ーメイクの例(一部)ー

3) キャリア基準の策定 「わかる」の体系化ー

●各Levelにおいて身につけるキャリアは「わかる」ことを基準にすべきとの考え方に立ち、まず、各種の検定制度とキャリア・フレームワークの関係性を検討・定義した(図4)。

レベル	職種 職務	ビューティスペシャリスト			
		ヘア	メイク	ネイル	エステ
5	オーナー				
4	トレーナー	・「ヘア」についてはSBS認定等、比較的公認の制度がない。「美容師」の資格自体がヘアを基本としているため  ・独自のものを開発する、または、SBS認定の制度を開発	● SBS認定メイクディレクター 検定1級 ● HB認定メイクアップアーティスト1級	● SBS認定ネイルディレクター 検定1級 ● JNEC認定ネイリスト 技能 検定1級 ● 日本ネイリスト協会ジェルネイル技能検定1級	● SBS認定エステティックディレクター 検定1級
3	ビューティシャン		● SBS認定メイクディレクター 検定2級 ● HB認定メイクアップアーティスト2級	● SBS認定ネイルディレクター 検定2級 ● JNEC認定ネイリスト 技能 検定2級 ● 日本ネイリスト協会ジェルネイル技能検定2級	● SBS認定エステティックディレクター 検定2級
2	ジュニアビューティシャン		● SBS認定メイクディレクター 検定3級 ● HB認定メイクアップアーティスト3級	● SBS認定ネイルディレクター 検定3級 ● JNEC認定ネイリスト 技能 検定3級 ● 日本ネイリスト協会ジェルネイル技能検定3級	● SBS認定エステティックディレクター 検定3級
1	アシスタントビューティシャン		● SBS認定メイクディレクター 検定3級 ● HB認定メイクアップアーティスト3級	● SBS認定ネイルディレクター 検定3級 ● JNEC認定ネイリスト 技能 検定3級 ● 日本ネイリスト協会ジェルネイル技能検定3級	● SBS認定エステティックディレクター 検定3級
0	ベーシックビューティスチューデント				

図4 キャリア・フレームワークと各種検定制度との関係

●次に、各種検定制度で使用されている教材を調べ、キャリアの基準となる項目の体系化を図った。図5はメイクの例(一部)である。

知識大項目	知識中項目	知識小項目	知識細目1	知識細目2	
健康な皮膚の条件	皮膚の構造	皮膚表面	肌理・皮野・皮丘・皮膚溝		
			毛孔・汗孔		
		表皮	皮脂腺		
			基底層、有棘層、顆粒層、(透明層)、角質層の4層部分により層切らなる		
			基底層で細胞分裂し、上層に移動して角質層で剥落。角化作用。約4週間する。		
			基底(細胞)層	細胞分裂、色素形成細胞(メラノサイト)	
			有棘(細胞)層	5〜6層並ぶ	
			顆粒(細胞)層	クラトヒアリン顆粒。終末角化、アルカリ性で皮膚防御体	
			透明(細胞)層/淡明層	手のひら、足の裏のみにある	
		真皮	角質(細胞)層/角層	角化細胞が10数層並ぶ。ケラチン、NMF、細胞間脂質、外的刺激や異物侵入を防ぎ	
			張りや弾力の結合組織	弾力線維、膠原線維、基質	
			細胞成分	肥満細胞、線維芽細胞、組織球	
			付属器官	汗腺、皮脂腺、毛細血管、リンパ管、神経組織、毛包	
			上層より乳頭層、網状層		
			乳頭層	表皮と接触する乳頭体。表皮の栄養補給。皮膚につや、神経終末器官もある	
			網状層	結合組織、コラーゲン、エラスチン。皮膚に張りや弾力	
		皮膚の働き	皮下組織	網状組織、脂肪細胞	クッションの役目。エネルギー蓄積。皮膚に張り
				保護作用	物理的・化学的に対する保護作用
			分泌作用	対内保護作用	科学的刺激に対する保護作用
				汗の分泌(発汗)	細胞に対する保護作用
				皮脂の分泌	紫外線に対する保護作用
			体温調節作用	周囲の温度が高い場合の体温調節	抗体産生作用
				周囲の温度が低い場合の体温調節	排泄作用
知覚作用	皮膚は五感器の一つ		不感知性発汗と感知性発汗		
	吸収作用		エクリン腺とアポクリン腺		
呼吸作用	経皮呼吸		皮脂腺		
表情作用	表情筋の働き	男性ホルモン			
		血管収縮			
		触覚、冷覚、温覚、痛覚			
		知覚神経			

#### 4) キャリア・アセスメントの試行

本事業の最後に、構築した「できる」の体系の一部(ヘア)を用いて、美容師免許を取得して1、2年(レベル1か2)による自己評価と教員による評価を行った(キャリア・アセスメントの試行)。

レベルの指標				1〜4のいずれかであるか評価を行い、その数値を下部に記入。該当しない場合は空欄のままOK	
1	上位者の指示・助言の下で、担当分野に関するアシスタント業務を行うことができる。				
2	独力で、担当分野に関する標準的な業務を行うことができる。または、業務の一部を下位者に指示して遂行させることができる。				
3	独力で、担当分野に関する高度または最新の業務を行うことができる。または、業務の一部を下位者に指示して遂行させることができる。				
4	トレーナーとして、後進の担当分野に関する技術向上のための指導・育成を行うことができる。				
区分	能力ユニット	細目	能力細目	学生による評価	教員による評価
準備・後始末	美容用具の準備	美容用具の準備	用具、溶剤等を準備する。		
		美容用具の後始末	用具、溶剤等の後始末をする。		
カウンセリング	顧客ニーズの把握	顧客ニーズの把握	ヘアに対する顧客の要望を把握する。		
		顧客の状態の把握	毛髪の状態を観察・把握する。 パーマの状態を観察・把握する。 カラーの状態を観察・把握する。 ダメージ・健康を観察・把握する。		
	提案・合意形成	提案・合意形成	ヘアスタイルを提案し合意を形成する。		
		提案・合意形成	カラーを提案し合意を形成する。 パーマを提案し合意を形成する。		

図6 キャリア・アセスメントの試行

被験者自身による評価は、全体としてレベル1が一番多かったが、レベル2という回答もかなりの数に上っていた。また、最新の技術についての知識に自信があるのか、思った以上にレベル3と回答された項目が多かった。一方、教員による評価では、圧倒的にレベル2が多かった。すなわち、被験者による自己評価に比べて他者評価の方が高いという結果になった。

回答結果を細かく分析すると、また、同時に実施したアンケートの結果も見ると、現在の「できる」の表現では、能力細目のイメージにあいまいさが残ることが懸念された。この点について、具体的な制度設計段階において十分な検討が必要であると思われた。

(3) 事業実績について（連携体制、工程、普及方策、計画時に設定した活動指標(アウトプット)・成果実績(アウトカム)の評価等)

1) 連携体制

```

    graph TD
      IC[実施委員会  
(24名)] --- SC[制度構築分科会  
(8名)]
      IC --- EIC[実証評価分科会  
(8名)]
      SS[事務局スタッフ  
2名]
  
```

2) 工程表

実施項目等	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
プロジェクト推進委員会				●		●		●		3回	
制度構築分科会					●	●		●		3回	
実証評価分科会								●●		2回	
キャリア段位制度構築 (主要なプロセス部分)	→										
成果報告書取りまとめ							→				
成果報告会の実施									●	1回	

■プロジェクト推進委員会  
 第1回:10月16日、第2回:12月12日、第3回:2月20日  
 ■制度構築分科会  
 第1回:11月9日、第2回12月12日、第3回:2月20日  
 ■実証評価分科会  
 第1回:2月15日、第2回:2月20日  
 ■成果報告会  
 3月6日

3) 普及方策

A 報告書の作成と配布  
 本事業の実施内容(キャリア段位制度、実証評価)を記録した報告書を作成し、全国的美容系専門学校、業界団体等に幅広く配布する予定である。

B 成果報告会の実施  
 平成25年3月6日に成果報告会を実施した。その際、美容系専門学校、業界団体等に案内を送り、幅広い参加を呼び掛けた。

C Webサイト上での公開  
 本校をはじめとして、実施協力校、関連団体・組織のWebサイトに、報告書の公開も含めて事業の実施内容を公開し、閲覧を促す予定である。

D 実施協力校、関連団体・組織を通じた周知  
 本事業の実施協力校、全美連・ビューティビジネス学会等の関連団体・組織を通じて成果の普及を図る予定である。

4) 期待される活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム)等

A 活動指標

A-1 事業の実施に協力をいただいた機関数は20であった。  
 A-2 推進委員会、制度構築分科会、実証評価分科会、いずれも予定通りの回数開催した。

B 成果評価の目標

B-1 構築した制度・キャリアパスが明示されているか、また、妥当なものか  
 ・キャリア・アセスメントの試行結果から、明示され、かつ、おおむね妥当であるといえる

B-2 構築した制度・キャリア基準は明確になっているか、また、妥当なものか  
 ・明確になっている。また、極めて詳細にわたった網羅性が高いものであると評価できる

B-3 構築した制度・キャリアアセスメントテストは段位レベルと合った妥当なものか  
 ・表現のあいまいさがあり、制度運用のためには詳細な検討も必要である

(4) 事業終了後の方針について(継続性、発展性 等)

A 継続性に関する方針  
 24年度事業の成果を踏まえ、25年度においてキャリア段位制度としての確立を目指す。一方で、その後も、この制度を運用できるような体制を組織したい。

B 発展性に関する方針  
 構築したキャリア段位制度について、全美連やビューティビジネス学会を通じた普及・発展を図り、より一般性・普及性なものとしたの価値を高める。  
 また、コンソーシアムの活動や他分野における同様の制度構築活動と連携をとり、本制度の充実だけでなく、わが国全体のキャリア段位制度の確立に向けた支援活動を行う。  
 さらに、本事業で連携をとっている中国・韓国・台湾の主体と共に、本制度がアジア標準としても機能できる方向性を打ち出し、そのための発展的な活動を推進する。